おーい！くじらぐも

Vol.41　2024 年（令和 6 年）11 月号

発行人：（福）健翔会　相談支援センターくじらぐも
所在地：埼玉県行田市小見 1141 番地 1
TEL：048-580-3634　FAX：048-554-8814
MAIL：kujiragumo@kenshokai.net
発行責任者：くじらぐも　センター長　細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画」が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第 4 号事業所です。

生活全般の相談や悩み事、傾聴を心掛けお話を聴かせていただきます。お気軽にご相談ください。

2018 年公開の映画「こんな夜更けにバナナかよ　愛しき実話」をご紹介します。筋ジストロフィーにかかりながらも自らの夢や欲に素直に生きる青年と彼を支えともに生きるボランティアや家族の姿を描いた人間ドラマです。

動かせるのは首と手だけ。体は不自由、心は自由な青年はボランティアに無茶苦茶な要求をします。

ボランティアが話す「あなた何様？」「あの人のわがままは命懸けなんだ」本人が話す「僕は一日一日が勝負なんだ」言葉の重みを痛感する作品です。

『業界の常識を破り続ける埼玉発のスーパー「ベルク」の快進撃』

先月のおーい！くじらぐも 10 月号で少し紹介した、スーパー「ベルク」の取り組みについて、福祉にも参考になるのではないかと感じ、紹介したいと思います。

ベルクは既存店の売り上げを伸ばして連続増収を続けています。ベルクの取り組みはかなり異質で、同業他社がやっていないようなことを積極的に取り組み、独自の経営を貫いています。その一つが、レジ袋をいまだに無料にしていること。まさに、ほとんどないスーパーです。このような変わった取り組みがベルクにはたくさんあります。なぜ、一風変わった取り組みを行うのか。そして、なぜ打ち続けるのか。

そこにはベルクの「他がやらないことをやることで生き残りを図る」という強い意志があります。福祉サービスもあらゆる形態が乱立する時代に、人気のある事業所、支持される事業所、その反対と福祉も生き残りを懸けた経営が求められるようになりました。それには、事業所独自の特色を出し、契約児（家族）・者に「選んでもらう」必要があります。その判断のひとつとなるのが、ベルクの「独自性を出す」ということに繋がります。どうすれば、お客様に選んでもらえるのか？そもそも、働く人・働きたい人が働きやすい環境を整えることで、雰囲気もよくなり、お客様が選びやすい環境になるのではないか、ベルクはそこにも視点を置いている気がします。

それが、ベルクが 2023 年に発表した従業員の身だしなみ基準の大きな緩和です。安全・衛生上のルールの範囲内ではありますが、ほぼ自由になりました。普段オシャレをしている人にはうれしい緩和です。髪色を明るくしたいため退職を申し出た人が、退職を撤回するなど優秀な人材の流出防止にも繋がっているとのことです。

地域の人々のためにできることを、人の能力を最大限に発揮する環境を整えて実行する。そんな「人」を中心に置いた経営方針は、福祉にとっても、参考になるところがあるのではないでしょうか。

＜11 月のトピックス＞

くじらぐもは、グループホームに入居しているご利用者も多く担当しています。当然、担当していない方もいますが、グループホームに出入りしている以上、顔を合わせることも多いため、顔馴染みになります。

先日、あるスーパーでどこかで見たことのある方がいました。その方は黙々と外のリサイクル BOX に貯まるリサイクル品を片付けていきます。本当に慣れた手つきです。しばらく見ていると、「くじらぐもの細川さんでしょ。〇〇のグループホームの〇〇です」とのこと。グループホームと違う場所で会うのは初めてなのに、私のことを覚えていて、ましてや挨拶してくれるなんて・・・。世間は狭いですが、うれしい出来事でした。